

令和元年度第2回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

【要旨】

日時 令和元年8月22日(木) 19:00~20:50

場所 羽咋市役所 401会議室

出席者

- 委員長 : 岩城 和男 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 副委員長 : 三宅 立美 (羽咋市町会長連合会会長)
- 委員 : 松永 義民 (羽咋市商工会理事)
- 三井 孝秀 (はくい市観光協会会長)
- 武田 広 (はくい農業協同組合総務部長)
- 出村 太一 (日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長)
- 堀田 泰永 (羽咋市校長会瑞穂小学校校長)
- 加藤 友彦 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 中村 史人 (羽咋市銀行会 : のと共栄信用金庫
ふるさと支援室次長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- 山田 真広 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 林 修二 (株式会社北陸中日新聞羽咋通信局長)
- 酒井 恵美 (羽咋市青年団協議会直前会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 大門 留美 (公募委員 : 一般)
- 欠席委員 : 安達 吏和 (羽咋市教育委員会教育委員)
- 大林 浩 (創和テキスタイル株式会社代表取締役社長)
- 春木 謙一郎 (七尾公共職業安定所羽咋出張所所長)
- 松永 一美 (NPO 法人わくわくネットはくい理事)
- 圓山 晃歩 (株式会社御祓川)
- 新田 聡 (公募委員 : 一般)
- オブザーバー : 手持 佳也 (北陸財務局総務課長)
- 綿木 浩三 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー : 高山 純一 (国立大学法人金沢大学教授)
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学特任助教)
- 市側出席者 : 今井 史也 (市参事兼産業建設部長)
- 若狭 義高 (市参事兼市民福祉部長)
- 川口 哲治 (総務部長兼羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長)

西井 健一 (教育次長)
山本 裕一 (企画財政課長)
清水 吉朗 (農林水産課長)
池田 博明 (商工観光課長)
奥 利明 (地域整備課長)
和田 正美 (健康福祉課長)
中島 一明 (6次産業創生室長)
片山 みゆき (地域包括ケア推進室)
岡嶋 克己 (学校教育課長補佐)
和田 美紀 (総務課参事)
松田 義人 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局局長補佐)
見附 敦史 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局係長)
石本 哲也 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)
中瀬 莉奈 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局主事)

会議傍聴者 : 一名

1. 開会

2. 委員長挨拶

(略)

3. 協議事項

(略)

4. 重点審査7施策、追加施策に係る質疑応答

(1) ■基本的施策名：(3-1-1) 結婚を希望する若者への支援

□具体的な施策名：出会いの場創出支援

(質疑①) ○委員：婚活イベントを主催する団体への補助金要件として、市内の男性に限るなど制限があると思うが、どういったものがあるのか。

(応答) 健康福祉課長：基本的には、男性は市内の方や市内への移住を予定している

方としており、女性は市内外に問わず受け入れている。年齢はおおむね 25 歳以上の方としている。

(質疑②) O 委員：婚活イベントを主催する側の意見としては、こういった要件があると募集をいづらい。例えば、繰り返し参加される方が増えてしまうことなどが起こるため、制限を緩和することで、より使いやすい補助金となるのではないか。

(応答) 健康福祉課長：市の人口増加を目的として行う制度のため、ご指摘の点を踏まえて、今後も検討していきたい。

(質疑③) B 委員：事業決算額が右肩上がりとなっているが、理由は何か。

(応答) 健康福祉課長：国の補助金と市の財源により事業を行っているが、昨年度は新たな試みとして、民間委託により市が主催する婚活イベントを実施したためである。

(質疑④) K 委員：実績を見ると、ハピネスツアーのカップル成立確率が高い。どのような内容なのか。

(応答) 健康福祉課長：のと里山空港から飛行機を利用して、東京観光しながら交流を深める 1 泊 2 日の宿泊型ツアーとして行った。実績のある民間団体へ委託しており、カップル成立確率も高くなった。

【総合評価】総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

(2) ■基本的施策名：(3-2-2) 出産・子育てしやすい環境の整備

□具体的な施策名：子どもを産み育てる支援体制の充実

(質疑①) O 委員：子育て世代包括支援センターに関して、市内への広報だけでなく、市外の医療機関等への広報は行わないのか。

(応答) 健康福祉課長：羽咋郡市の産科については、周知を行っている。

【総合評価】総合評価については、○の取組内容の継続とする。

(3) ■基本的施策名：(3-3-2) 次代に対応するための学習能力の向上

□具体的な施策名：国際的に活躍できる人材の「卵」の育成

(質疑①) R 委員：海外派遣交流事業の受入れ先を、なぜシアトルにしたのか。

(応答) 教育次長：シアトルには日系アメリカ人が多くおり、移住の歴史を学ぶこともできる。また世界の IT 産業の最先端であり、ボーイング社といった名だたる企業もそろっている地域を中学生に体験させ、将来に役立ててもらいたいという思いである。

(質疑②) R 委員：費用や現地の滞在費を考えると、行く人数は限られるが交換留学のような形とすると、向こうから来る人達とまた交流ができるので、検討いただけないか。

教育次長：来年度に向けては、まずは本市から派遣することを目標に計画していきたいと考えている。

(質疑③) U 委員：羽咋市は英語教育が盛んなことは承知しているが、2020 年からプログラミング教育も必修化する。プログラミング教育にも力を入れる可能性はあるか。

(応答) 教育次長：2020 年度のプログラミング教育の必修化に伴い、今年度から各小中学校において、レゴ製のロボットや「ペッパー君」のような機械を用意し、プログラミングの行い方の研修を行うなど準備を進めている。

(質疑④) U 委員：民間の会社がプログラミング教育を推進する場合などに、今後、市から助成を受けられる可能性はあるか。

(応答) 教育次長：現在のところそういった相談はいただいているが、今後検討していきたいと思う。

(質疑⑤) M 委員：TOEIC、TOEFL など別の英語資格試験への助成についても検討されているのか。

(応答) 教育次長：今のところ、検討はしていない。

(応答) A 委員：TOEFL はアメリカの大学のための試験、TOEIC はビジネス向けであり、英検というのは大学改革で受験に影響してくるから、市の教育では英検に力を入れているという理解である。英語というのは会話するための単なる道具であるため、教育ではそれを使ってどうするのかというのが重要となってくる。

例えば、金沢大学のジュニアドクター制度を市内小中学校へ周知し、積極的に参加するような教育を行っていけばどうかと考える。

(質疑⑥) N 委員：英検 3 級というのは、どの程度の学力で合格するとされているのか。

(応答) 教育次長：中学校卒業程度の学力で合格するとされている。

(応答) 平子アドバイザー：一般に合格率は 5 割程度のものである。

(質疑⑦) M 委員：高校、大学など進学してからも英語に親しめるように、英検の取得の先を見据えた教育を行わないといけないのではないか。

(応答) 教育次長：ご意見を踏まえ検討していきたい。

【総合評価】総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

(4) ■基本的施策名：(4-3-1) 地域における減災・防災体制の充実

□具体的な施策名：老朽空き家等への対応

(質疑①) A 委員：特定空き家というのは、市内にどれくらいあるのか。

(応答) 地域整備課長：市では、平成 27 年度に老朽空き家の調査を行っている。その際に、特定空き家として 12 件指定し、助言・指導の下、取り壊しを行い、現在は 5 件が特定空き家となっている。また、以前の調査から 4 年ほど経っているため、町会長にご協力いただき、地域の空き家の状況を再度確認しているところである。

(質疑②) B 委員：空き家自体は市内にどれくらいあるのか。

地域整備課長：平成 27 年度の調査の結果では、約 820 件であった。当時は空き家率 7.3%となっていたが、現状はさらに変化していると考えている。

(質疑③) K 委員：市で 5 件の応急処置を実施したと実績が挙げられているが、市の予算で費用を負担したということか。

(応答) 地域整備課長：素早い対応が必要なことから、所有者同意の下、市で応急処置を行い、費用を所有者へ請求したものである。

(質疑④) K 委員：応急処置というのは、どのようなことを行うのか。

(応答) 地域整備課長：一番多いのは、台風のシーズンなどに瓦が飛びそう、落ちそうといった危険がある時の補修である。

【総合評価】総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

(5) ■基本的施策名：(4-3-2) 地域包括ケアシステムの構築と推進

□具体的な施策名：生活支援体制の整備

(質疑①) B 委員：事業決算額が右肩上がりとなっているが、理由は何か。

(応答) 地域包括ケア推進室長：拠点整備の補助申請の増加により事業決算額が増加している。

(質疑②) B 委員：住民主体通所拠点整備数 11 組織とは、具体的にどこになるのか。

(応答) 地域包括ケア推進室長：おっちゃ家、白山よりあい処「とくよもさ」、支えあいの家じんしろ、川原町御陵の郷なかよし会、大町おたのしみ会、支えあいの家まとは、東川原町はつらつクラブ、支えあいの家いのやま、はつらつ元気会、島出町「いざなみ会」、東部いきいき体操教室の 11 組織となる。

(質疑③) B 委員：住民主体通所拠点をどのような形で周知しているのか。

(応答) 地域包括ケア推進室長：市の広報誌などで周知をはかっている。

【総合評価】総合評価については、○の取組内容の継続とする。

(6) ■基本的施策名：(4-4-2) 「地域における足」となる循環型交通の確保

□具体的な施策名：地域循環型交通手段の確保

(質疑①) B 委員：地域循環バスの平均的な利用者数を教えてほしい。

(応答) 地域包括ケア推進室長：コースにもよるが、数人から 20 名程度である。

(質疑②) B 委員：バスはバリアフリー対応になっているのか。

(応答) 地域包括ケア推進室長：バスはかなり低いステップになっているので、多少杖をつけて歩いているような方でも乗りやすい仕様になっている。

【総合評価】総合評価については、△の取組内容の見直しとする。

(7) ■基本的施策名：(4-6-1)「ふるさと応援団」等による都市部との交流と共創
□具体的な施策名：ふるさと納税の推進

(質疑①) B 委員：この施策の目標値と実績値は何を示しているのか。

(応答) 6次産業創生室長：目標値は当初の予算額を記載しており、実績値は実際に寄附があった額を記載してある。

(質疑②) B 委員：2018年は1億6千2百万円の予算をかけており、寄附額との差分で2億程度の儲けがあったということか。

(応答) 6次産業創生室長：おっしゃるとおり。

(質疑③) B 委員：1億6千2百万円の予算について、大きく占めているものを教えてほしい。

(応答) 6次産業創生室長：返礼品の経費やPR費が大きく占めている。

(質疑④) A 委員：ふるさと納税の返礼が厳格化されたことにより、今年度のふるさと納税額の見込みが3分の1減額される。これは、ある程度確度が高い数値なのか。

(応答) 6次産業創生室長：昨年度の実績から推測しているため、ある程度確度の高い数値と考えている。ただし、今年度すでに寄附いただいた実績から推測すると、最終的に2億円から2億6千万円程度となる。より多くの寄附をいただくために魅力ある返礼品を用意するよう努力していきたいと考えている。

【総合評価】総合評価については、◎の取組内容の深化・発展とする。

(追加1施策)

- (8) ■基本的施策名：(4-2-1) 公共施設の長寿命化と計画的整備
□具体的な施策名：道路・橋りょう・公園等の長寿命化の推進

(質疑①) B 委員：事業決算額がかなり増えてきているが、補助金があるのか。

(応答) 地域整備課長：国の社会資本整備総合交付金を利用し事業を行っている。

【総合評価】総合評価については、○の取組内容の継続とする。

5. そのほかの施策の効果検証・評価の決定（43施策）

資料1の有識者会議審査結果（案）のとおりの評価で決定。

6. 講評

(1) オブザーバー：北陸財務局 手持 佳也 総務課長

大変ご苦勞様でした。前回もそうでしたけれども、各参加者の方が一生懸命にいろいろと審議していただいているなど私も感じさせていただきました。地域のことは、地域の方が参加して、考えていただけるのが一番いいのかなと。引き続き、こういう審議をしていただくとありがたいと思います。

(2) オブザーバー：石川県中能登総合事務所 綿木 浩三 所長

皆様お疲れ様でした。私の方からは、前回の基本目標1、2と比べて、今回の基本目標3、4は、市民の皆様に関わる目標だのではないかなと思います。市民生活の満足度を上げるような目標であったり、公共インフラの話がありましたが、市民の皆様の命や財産を守るための目標であるという風に私は思っています。いただいた資料をよく読みときますと、前回行われた基本目標1、2についての各施策の評価というものがあったんですけど、それよりも今回の基本目標3、4の評価というのが、両目標とも対前年の平成29年評価よりも評価アップしている事業数が評価ダウンの事業数を上回っているということで、概ね皆様方の、委員の皆様の評価が高まっているという風に私は受け止めました。少子高齢化でいろいろな課題が出てきて、市町で悩んでいるんですけども、こういった課題をそれぞれの個人や家族だけの問題として対応しようとするとかかなり荷が重くなっていくということで、地域全体の課題として、行政も後押ししながら地域とともに課題解決していかないと難しい面があるのではないかなと思っています。そのためには、地域で解決するための議論というのは継続して重ねていかないといいな

いのかなという風に思っています。

『次代に対応するための学習能力の向上』について、英語の話もありましたが、話せる英語、中学生の方なんで今風に言えば話せる英語として、英検が受かるかどうかという試験内容になっていると思うんですけども、和訳、英訳の試験勉強というの、中学生ですので大切だと思うんです。けれど、ALTを増やしているということなんで、ネイティブの方と日常会話をできるようにになれば、当然羽咋市さん、国際的にコミュニケーションの輪が広がってですね、羽咋市育ちの中学生の方が大きくなって、国際的な舞台に出ていかれたときに、自分の生まれ故郷の羽咋のこと、良さを英語を使って、世界中で話していただけるというようにやっていただければものすごく良いのではないかと思います。

(3) アドバイザー：国立大学法人金沢大学大学院 高山純一 教授

前回と同様、厳しめのアドバイスになってしまうかもしれませんが、ご了承をお願いします。今回、基本目標3、4それぞれに対して、重点審査項目を3つ、それから4つ、最後に1つ加わりましたが、選んだ項目は非常に的確だったのではないかと思います。

『結婚を希望する若者への支援』について、若い世代の結婚・出産・子育てというのは、まち・ひと・しごとの中でも、私は一丁目一番地にすべき項目だと思っているんです。要は人が減っていけば、まちがなくなるわけですから。そういう意味では、人をいかに増やすか、もちろん交流人口を増やしたりすることも大事なんですけど、いいまちにすればそこに移住してくる、移住も大事だと思うんですけど、何よりもやはり地域の方が地域に住み続ける、そのためには地域に対する誇りなり、いろいろそういうものを子どものころから育てながら、地域で住もうという風に思ってもらってというのが一番でしょうし。ただ、最近は晩婚化やシングルがいいという人が多いですが、出会いの場を作るということは非常に重要ですし、大事だと思います。婚活の取組みはいろいろな形で、成果に上がってくるかどうかというのは難しいんですけど、加速度的にやるのが求められている反面、かなり地道な努力っていうのは大事かなと。昔は、おせっかいなおばさん、おじさんがいて、見合っていうのがありましたけれど、最近はそういうのはだんだん少なくなってきていますから、そういう意味では公の場ではないのかもしれないですけど、こういう婚活という仕組みをしっかりといただければ、非常に成果は上がってくるのではないかなと思います。

もちろん、2番目の『出産・子育てしやすい環境の整備』について、出産に対しての支援も非常に大事ですし、特に若いパパ、ママっていうんですかね、おそらく私もですが、子どもが生まれたときに初めてですからどうしたらいいか迷うんですけど、そういうことに対する支援も非常に大事だと思います。

3番目の『次代に対応するための学習能力の向上』について、英語教育に対しては、是非取り組んでいただければと思います。生の英語をネイティブの方から聞ける機会。

子どもの時から耳で聞く英語は非常に大事です。今 ALT が 4 人体制だとお聞きしましたが、さらに増やす努力をすともっともっと効果は上がるのではないかなと思うんです。日本の大学もどんどん変わろうとしています。金沢大学もあと 5 年、6 年先には、英語で卒業できるプログラム、コースをつくらうとしていますし、大学院の教育では 100% 英語にしようとしている、なりつつありますし、そういう意味では必須科目だと思うんです。羽咋市は英語に力を入れているということは非常に大事なかなという風に思います。

4 番目の『地域における減災・防災体制の充実』について、老朽空き家の問題というのは、これからますます大きな問題になると思います。幸いなことに石川県は、能登半島地震がありましたけれど、それ以外ではそうそう大きな地震はこれまではありませんが、金沢でも羽咋でも活断層が通っているところがたくさんありますから、そこがずれないという保証はありませんので、もし少し大きな地震が来ると、途端にこの老朽空き家というのは危ない。そこは是非対策なりをしていくのが重要だと思います。今、空き家率 7.3% ということで、割と低いのかなと思うんですが、もっと多いのではないかなと実質は思っているんですけど、今年調査されるということですから、調査結果を見てみたいかなと思っています。

5 番目の『地域包括ケアシステムの構築と推進』について、地域包括ケア、私も多少関わっておりますが、これも非常に大事ですし、変な言い方ですけど、おそらくこれからの需要が増えていくのではないかと。2025 年問題、要は団塊の世代が後期高齢者に入っていく時代になりますし。今は後期高齢者といったって個人差はありますが、元気なおじいちゃん、おばあちゃんですから。あと 10 年後、85 歳くらい前後になると大変になってくるので、その頃を見越して、それでも元気な老人を増やす、そのための地域包括ケアというのは、ものすごく大事ですので、ここにもかなり力を入れてもらえばと思います。

6 番目の『「地域における足」となる循環型交通の確保』について、公共交通、私はずっと専門にしている、これの評価が△というのは非常に残念ですが、要は免許を持たない高齢者が多かった時代から 5 年たつて、免許を持つてる高齢者が増えてくるわけです。ですから、公共交通のるんるんバスを利用しなくなるのは当然なんです。どこを見てもそうなんです。金沢もそうですし、能登もそうですし。それがそのうち後期高齢者も過ぎて、あと 10 年、85 歳前後になると、元気でも危ないんですよ、絶対に。そうなるとう公共交通というのは、必ず地域の足として必要ですから。今はあんまり乗る人は少ないかもしれませんが、今の団塊の世代が 10 年、15 年すると、乗らざるを得なくなる。そのころまでに自動運転自動車が完全実用化されていけば問題ないかもしれませんが、それも少しクエスチョンがつく。だいた動いているとは思いますが、個人がそれを所有する時代ではおそらくないと思いますから。そうすると、それまでの間をどうするか、課題は非常に多くて、今見直しをされるということですけど、きちんとした見直しがされることを期待しています。

7番目の『「ふるさと応援団」等による都市部との交流と共創』について、ふるさと納税ですが、これは返礼品が魅力なんでしょうね羽咋は。だから、ものすごく多いのだと思います。ふるさと納税で皆さん期待するのは返礼品なんですけど、いいところ、悪いところ、いろいろあると思うんです。よかったところはリピーターで、また納税しようかなという気持ちになりますから。そういう意味では、今、非常に好調だということなので、それを上手くPRしながら維持するようにされたらどうかなと思います。

最後、8番目の『道路・橋りょう・公園等の長寿命化の推進』の件ですけど、これはもう1億数千万円の額ではすまないことになってきます。と言いますか、ほっとけばいいんですけど、直さなくて。でも、ほっといて直さなければいつか落ちてしまうという問題も出てきますから、そうすると大変な話になりますので。そういう意味では落ちないよう、あるいは、完全に全部架け替える前に、長寿命化といって、今保守点検をしているわけです。これの予算は、おそらく国全体でも困ってしまっていて、どうするか非常に大きな課題なわけです。アメリカというのは、公共投資に対して維持管理をこれまでほとんどやってきてない国なんです。おそらく時々、橋が落ちたり、道路が陥没したりというのが出てきますけど、日本はそういうことがあると大問題になりますけど、アメリカではそれでもそんなもんかという国です。何とかなっていますけど。今のトランプ政権もそれに対して少し危機感を持っているようなので、わかりませんが、私の予想では多少そっちに踏み込むのではないのかなと思っています。というのは来年選挙がありますから、そういう票取りの問題もあるんだろうと思うんです。日本は票取りという話ではなくて、生活のために、安全安心のためには、公共施設、あるいは、公共インフラというものに対して、お金がかかるのは仕方がないので、少しずつでもやっていかなければならないので、ここは非常に大事なことなのかなと。羽咋市も今後、20年、30年先を見越した維持管理計画を立てなければいけないので、おそらくこのくらいでは全然済まないのではないかなと思っています。以上です。

7. その他（事務連絡等）

（略）

8. 閉会